

国際がん研究機関
世界保健機関

プレスリリース

No.208

2011年5月31日

IARCは無線周波数電磁場を人間に対して
発がん性の可能性があるとして分類

2011年5月31日、フランス、リヨン---WHO/国際がん研究機関 (IARC) は、無線電話の使用に関わる、脳のがんの悪性タイプである神経膠腫のリスク増加に基づき、無線周波数電磁場を人間に対して発がん性の可能性がある(グループ 2B)として分類した。

背景

過去数十年間、無線通信機器によって照射されるような、無線周波数電磁場への被曝によって起きる有害な健康影響の可能性について、懸念が増えていた。携帯電話契約者の数は、全世界で50億人と推定される。

2011年5月24日から31日、14か国31人の科学者のワーキンググループが、無線周波数電磁場への被曝による可能性のある発がん性の危険を評価するため、フランスのリヨンで会議を開いていた。これらの評価は、IARC モノグラフの102号で発表されるだろう。それは、55号(太陽光放射線)、電離放射線に関する75号と78号(X線、ガンマ線、中性子、放射線核種)、非電離放射線に関する80号(極低周波電磁場)に続く、物理的因子に焦点をあてたこのシリーズの5番目の号になるだろう。

IARC モノグラフ・ワーキンググループは、これらの被曝が長期的健康影響を誘発する可能性、とくにがんのリスク増加について議論した。これは公衆衛生、とくに携帯電話使用者に関連がある。使用者の人数は、とくに若者や子どもたちの間で大きく、増えているからだ。

IARC モノグラフ・ワーキンググループは、無線周波数電磁場を伴う下記の被

曝分類において入手可能な文献を評価し、議論した。

- ・ レーダーとマイクロ波への職業被曝
- ・ ラジオ、テレビ、無線電話通信の送信に関わる環境被曝
- ・ 無線電話の使用に関わる個人的な被曝

国際的な専門家たちは、被曝データ、人間に関するがんの研究、動物実験でのがんの研究、メカニズムとその他の関連データに取り組む複合的な作業を共有した。

結果

科学的証拠は、無線電話ユーザーの間で神経膠腫と聴神経腫に限られていて他のタイプのガンの結論を描くために不十分なため、徹底的にレビューされ、全体的に評価された。上記のように説明された職業被曝と環境被曝の科学的証拠は、同様に不十分と判断された。ワーキンググループは、リスクを定量化しなかった。しかし、携帯電話使用に関する過去の研究（2004年まで）は、ヘビーユーザーの最も高い分類で、神経膠腫のリスクが40%増えることを示した（報告された平均：1日30分を10年以上）。

結論

ジョナサン・セイメット博士（アメリカ、南カリフォルニア大学）、ワーキンググループの全体の議長は、「科学的証拠はまだ集まっていて、結論と2B分類を支持するだけの十分な強さがある。いくらかのリスクがあり、したがってガンのリスクと携帯電話の関連性を厳重に監視す必要があることを、結論は意味する」と指摘した。

「成果とこの分類のために、可能性のある結果を与えた」と IARC ディレクターのクリストファー・ワイルドは述べた。「長期期間の、携帯電話のヘビーユーザーについてさらに調査をすることが重要だ。そのような情報が入手できるまでの間、ハンズフリー装置やメールのように、被曝を減らすための実際的な対策をとる事が重要だ」。

ワーキンググループは数百もの科学的文献を検討した。完全なリストはモノ

グラフで発表されるだろう。インターフォン研究の結果であるいくつかの印刷中の最近の研究が、少し前にワーキンググループで入手されたことに触れるのは注目に値する。それは集められ、当時の出版の承認を反映し、評価に含まれた。

IARC ワーキンググループの主な結論を要約し、無線周波数電磁場（携帯電話の使用を含む）の発がん性の危険を評価した簡潔な報告書は、ランセット・オンコロジーの7月1日号と、数日のうちにオンラインで発表されるだろう。

出典

http://www.iarc.fr/en/media-centre/pr/2011/pdfs/pr208_E.pdf

（訳：加藤やすこ 2011年6月1日）